

夏季大会における熱中症等の対策について

本大会は夏季に開催されるため、参加選手・保護者・大会関係者の皆様の安全を最優先とし、熱中症予防を目的とした対応方針を以下の通り定めます。WBGT（暑さ指数）の値に基づき、試合中の対応、試合間のルール、1日あたりの最大試合数について段階的に対応いたします。

1. WBGT 値による対応指針

WBGT 値	区分	試合中の対応	試合間・その他の対応
～27.9℃	注意	通常進行	特別な制限なし。水分補給の声かけを実施。
28.0～30.9℃	警戒	各試合中に1回の給水タイム（6ゲーム後）を設定	試合終了後から最低15分間の休憩を確保。 敗者審判制ではなく、セルフジャッジ。（以降継続） 6ゲーム目に1分間の給水時間を設ける。（着席なし）
31.0～32.1℃	厳重警戒	各試合中に2回の給水タイム（6, 10ゲーム後）を設定	試合終了後から最低20分の休憩を確保。 6, 10ゲーム目に1分間の給水時間を設ける。（着席なし）
32.2℃以上	危険	各ゲームに追加の給水タイムを認める	試合終了後から最低20分の休憩を確保。 ゲーム間に1分間の給水時間を設ける。（着席なし）

2. WBGT 値による最大試合数制限

熱中症の予防を目的として、WBGTの値に応じて1選手が1日に出場可能な試合数を以下の通り制限いたします。

WBGT 値	1選手あたりの最大試合数（目安）
～30.9℃	シングルス4試合、ダブルス最大5試合まで（種目に応じて）
31.0～32.1℃	シングルス3試合、ダブルス4試合まで（種目に応じて）
32.2℃以上	シングルス2試合、ダブルス3試合まで（種目に応じて）

※値が32.2℃を超えて、一日に複数種目を行う場合は、合計シングルス1試合、ダブルス3試合またはシングルス2試合ダブルス2試合までとする。

3. 会場・レフェリーの対応

- ・会場のレフェリーは1時間ごとにWBGTの計測を行います。（計測器がない会場は市町村のHPから値を計測します。）
- ・本部で緊急時に使用する冷却用具や経口補水液を準備します。
- ・会場で可能な場合は冷房の利く部屋を確保します。（会場によっては日陰等で対応になる場合があります）
- ・開会式・掲示等で暑さ対策の注意喚起を行います。
- ・セルフジャッジの場合はロービングアンパイアを配置し、緊急時の対応をします。

4. 選手・保護者の皆様へのお願い

- ・大会前日の睡眠、大会当日の朝食・昼食を十分摂ってください。大会当日体調が優れない場合は、出場しないでください。
大会参加当日の朝に健康チェックのフォーム入力をお願いします。（受付の際に入力確認を提示してもらいます。）
- ・こまめな水分・塩分補給、帽子や日傘、通気性の良い衣服の着用、冷却用具（氷嚢・スプレー等）の活用をお願いいたします。
- ・大会中は、可能な限り日陰で待機してください。
- ・WBGTの値によっては大会が順延する可能性がありますので、予定の確認をしてください。
- ・安全を最優先し、運営側の判断により試合中断・競技からの離脱（棄権）をお願いする場合がありますことを了承してください。
- ・大会当日、体調が悪くなった場合は、大会本部および各校顧問に連絡してください。大会本部の判断で救急車対応等をとる場合があることを了承してください。
- ・セルフジャッジの場合は試合開始前に選手同士でスコアカードに名前等の記入、試合終了後、本部に勝者はシートを持って報告に来てください。